



OT推進チーム

作業療法の学び直し！

# トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ

教育班

田染 佐夏

# はじめに

発症早期から本人のしたい作業に  
なぜ従事するのだろうか？  
機能訓練をしてからでいいのでは？

作業療法はクライアントの作業従事を支援します。  
しかし、上記のような疑問を感じる方もいること  
でしょう。 そんな時に介入の拠り所になってくれる  
考え方があります。

それが…

## トップダウンアプローチ



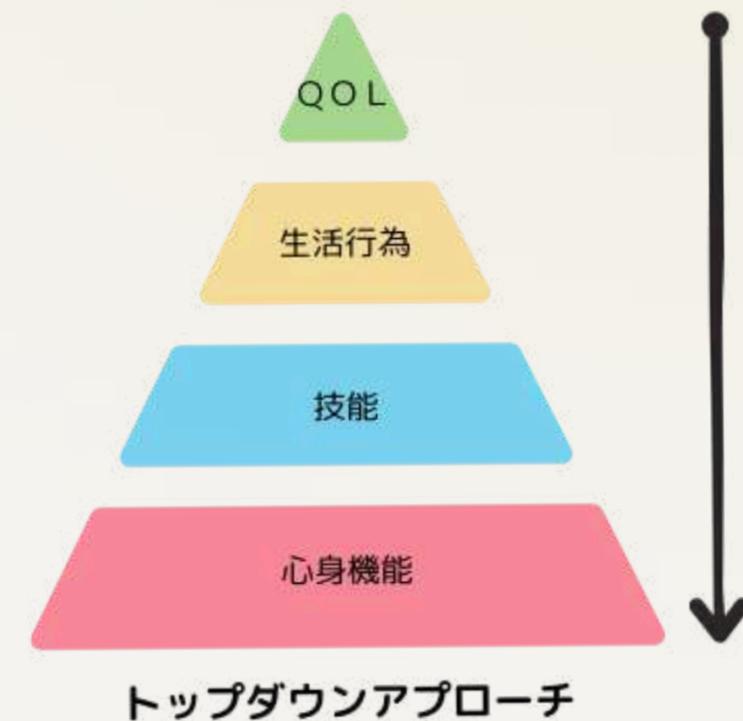
# トップダウンアプローチとは

top down approach (以下、TDA)

## ● QOLを向上することで心身機能の回復を図る手法

QOLが高まることで他の作業に対する関心が増え、行動が増えることで結果として心身機能が回復するという考え方です。

多重障害や難病など障害との付き合い方を模索していくニーズをもったクライアント支援に有用です。



# ボトムアップアプローチとは

bottom up approach (以下、BUA)

## ● 心身機能を向上することでQOLの回復を図る手法

心身機能が向上して、行動が増えることで、QOLが回復するという一般的な考え方です。

BUAは、心身機能向上の程度に寄りますが、TUAと比較して行動の選択肢が増えることが利点です。



# 絵を描くことが好きなクライアント

TDA



今の心身機能で描いてみよう

BUA



絵を描くためにトレーニングしよう

したいことに直結しやすいのがTDA

## TDAとBUAの共通点

QOL向上のために  
介入している点



心身機能向上ありきで  
介入構築している点

回復モデルを基盤とした  
介入がよいケースに有用  
(万能ではない)



楽しくて、ワクワクする作業療法を実践しませんか？

# おわりに

## 様々な裏付けを用いて作業療法実践の糧にしましょう。

作業を用いた実践が感覚的に重要であることは多くの作業療法士が理解しています。

しかし、医療のリハビリテーションの世界ではBUAがまだまだ主流です。

「自分を生きる」を支援することがTDAであり、今後のリハビリテーションでもっと実践されるように取り入れていきましょう！

印西総合病院 作業療法士 田染 佐夏

## 読んでいただきありがとうございました

